

まちかどトーク（北般若地区）議事要旨

日時：令和8年6月7日（日）17:00～18:15

場所：北般若地域交流センター

参加者：37人

1 市長あいさつ

2 市政に関する説明

「空き家対策について」建築政策課から説明の後、質疑応答

参加者

10年以上空き家となっている隣家があり、瓦の落下や草木の繁茂（ツルが建物全体に伸びている状態）が著しく、いつ倒壊するか分からない現状である。

元の所有者は他界し、相続人となる子どものうち1人は連絡がつかず、もう1人はアパートに住む独身者で「一切関知したくない。放棄したい」と主張している。

このような状況について、どここの行政窓口相談すればよいか。

建築政策課

草木の繁茂のみが原因であれば環境政策課が窓口となるが、瓦の落下の恐れなど建物の状態が悪い場合は建築政策課が窓口となる。

建築政策課にて所有者や法定相続人を調査し、指導や助言を行う。

参加者

以前、その息子の連絡先を突き止め、庭木の枝の処理を求めてすったもんだした末に処理費用を支払ってもらったが、5年経ってまた木が伸びてきている。

相手がいつ行方知れずになるか分からないため、市側で一度精査し、連絡等の配慮をお願いしたい。

参加者

財産放棄された住宅についての相談である。田んぼは委託業者により継続管理されているが、家屋については動物の出入り、植栽の倒壊、塀の脱落の恐れがあり心配している。以前市役所に相談した際、建物倒壊、植物のはみ出し、有害動物などの問題ごとに担当課が異なる縦割りの対応をされ、複合的な課題への対応に難しさを感じた。

環境政策課や農業委員会など複数の部門にまたがる課題について、総合的にトータルサポートできる対応をお願いしたい。また、財産放棄された物件についても柔軟な対応をお願いしたい。

建築政策課

動物が出入りするような空き家は、管理不全な状態である。

財産放棄されていても所有者調査の過程で法定相続人が判明する場合があるため、場所等の情報を提供いただければ、建築政策課にて調査し、助言・指導等を行う。

参加者

空き家に関する相談の実例にはどのようなものがあるか。

他の自治体（上市町のゼロ円家バンク、南砺市のマッチング、滑川市の減免制度など）のような、高岡市独自の画期的なアイデアや施策はあるか。

建築政策課

相談事例としては、草木の繁茂や瓦の落下の恐れが非常に多い。

瓦の落下の恐れがある場合は、所有者への連絡前にバリケードを設置して安全確保を行うなどの対応をとっている。現実には解決が難しい空き家も存在する。

施策としては、毎年4月の固定資産税納税通知書に「高岡市空き家活用推進協議会」のチラシを同封している。高岡市も構成団体の一員となっており、空き家バンクの活用など様々な相談を受け付ける体制を整えている。

市長

他市の事例も興味深いが、高岡市としては地道な取り組みを続けている。

納税通知書と同封のチラシを県外在住の親族等に送付するなどの地道な努力により、空き家バンクの成約数は当初の0件から現在は約50件にまで増加した。

今年度からは市内の空き家の全体調査を実施する予定である。派手な施策ではないが、空き家対策は地道に進めるしかないと考えている。

参加者

行政側は相続人等への指導を行うと言うが、指導だけでは改善しないのが現実である。報道であるような、行政による「強制執行（行政代執行）」を高岡市で行った事例はあるか。また、今後行うことは可能か。

建築政策課

空き家の管理責任はあくまで所有者にあるが、再三の指導にもかかわらず道路上への倒壊の恐れがあるなど、不特定多数に被害が及ぶと判断される緊急時には、市により除却を行った事例はある。

市長

行政代執行を行う場合、費用は原則所有者に請求するが、所有者に支払能力がない場合は市が費用を負担しなければならない。

そのような物件が高岡市内に多数存在するため、1件認めると数千件に波及する恐れがあり、すべてを代執行で行うと財政的にパンクしてしまう。

非常に難しい問題であり、今後10年でさらに深刻化すると予想されるが、限られた条件の中で1軒ずつうまく利活用されるよう取り組んでいく。

3 意見交換

「高岡市人口ピラミッド」を基に、市長より説明の後、意見交換

参加者

ICパーク高岡に隣接する西部金屋地内での産業団地開発計画に関し、都市計画課から住民への説明があり、市街化区域への編入手続きなど具体化が進んでいると判断している。新規の産業団地開発と企業誘致は、地域経済の活性化や新規雇用の増大につながる大きな事業であると考えているが、市長の思いを聞きたい。

市長

県から市街化区域への編入について好ましい方針が示されたことは、企業誘致の受け皿を確保していくものとして大きな一歩である。

6月2日に東京で開催された企業誘致のイベントもこの点を中心にアピールしてきた。高岡市には現在、他に売り出せる団地が残っていないため、この開発を形にすることは市の何十年先をも左右する自身の重要な責務である。

参加者

私自身も IC パーク高岡の開発時に全面的に応援してきた経緯がある。ぜひ高岡市が中心となって開発と企業誘致を強く進めてほしい。

参加者

戸出地区には若い世代が残っている一方で過疎化も進んでおり、90歳前後の高齢者によるひとり暮らし世帯が非常に多い。

他市（黒部市など）で事業化されている「エルワンネットサービス」のような見守りネットサービスを普及させ、離れて暮らす家族への安心提供やケアネットの充実を図るべきである。市として前向きな支援を検討してほしい。

市長

高岡市でも社会福祉協議会や民生委員が活動しているが、それだけでは追いつかない現状がある。

私自身、過去に地元の自治会長を務めていた際にも、住宅密集地でありながら高齢者の孤独死が発生し、発見が遅れた経験があり大きなショックを受けた。孤立させない、誰かと話ができるまちづくりが必要であり、社会福祉協議会とも議論し、最大限できることをやっていく。

参加者

城端線・氷見線の再整備にあたり、利用率を上げなければ存続は難しい。沿線にある高校も絶対に存続させてほしい。戸出地区でのバス運行計画にも期待している。

城端線の利用促進のため、戸出駅前に駐車場を整備してほしい。

市長

戸出駅まで車で行き、そこから電車に乗り換える（パークアンドライド）手法は今後必要になる。城端線・氷見線は様々な可能性を秘めており、この契機に多くの人に乗る仕組みを作りたい。高校のことも含め、県主導の動きを注視しながら高岡市長として要望を伝えていく。

参加者

戸出地区の人口や若い世代が高岡市全体よりも維持されている背景には、地域の努力がある。戸出7丁目や現在の5丁目、4丁目、3丁目周辺で住宅開発が進み、新しい住宅や一戸建てが増えている。

北般若地区でも、元は市街化調整区域でありながら、不動産業者が個人の宅地を分譲・住宅団地化したことで、人口が増加した。若い世代にもアパートの家賃を払うなら財産となるマイホームを取得したいと考える傾向があるため、市街化調整区域の線引き見直しを真っ先に検討してほしい。

市長

戸出地区における住宅団地が売り切れるなどの事例は聞いており、人口減少に歯止めをかける地域の努力に深く感謝する。

参加者

高岡法科大学の募集停止に伴う学生の流出を懸念している。富山県内は石川県に比べて大学が少なく、進学で県外へ出た若者が戻らない現状がある。地元で学び、地元で就職できる環境（地場産業への就職や結婚・子育てへのつながり）が必要である。

また、利用者の立場に立った環境選びとして、以下の2点を提案・確認したい。

子育て支援センターについて、現在、御旅屋セリオ内にあるが、小さな子どもを連れて市営駐車場から雨風の中を歩くのは負担が大きい。駐車場が広く、車をすぐ近くに停められる「おとぎの森公園」のような自然豊かな場所へ移転した方が利用者のためになるのではないかと。御旅屋セリオは、高齢者がバス等で集まれる住宅や施設として活用すべきである。

武道館について、中学生や高校生の利用が多い武道館が伏木地区へ移転することが決定的であるならば、現在の市内中心部（駅から徒歩圏内）に比べて学生が通いにくくなるため、利用者の立場に立った環境を選んでほしい。

市長

若い世代の生活において車が不可欠である現状を踏まえ、利用者の視点に立った施設配置の意見は重要であると認識している。

大学の存在は重要であり、高等教育機関を設置したい思いはある。高岡法科大学の空き校舎の活用も含めて問題意識は同じであるが、大学の設置は一度始めると撤退が困難なため、実際の進め方については慎重に検討すべきと考えている。

参加者

市の広報紙で始まった市長コラムを通じて、市政を身近に感じている。古城公園の樹木伐採や看板設置などの整備方針には賛同する。

一方で、前田利長公墓所を訪れた際、灯籠が倒れ草が荒れ放題になっている凄惨な現状を目にした。古城公園や瑞龍寺と同様に、利長公の墓所も重要な歴史資産であるため、早急な整備をお願いしたい。

市長

前田利長公墓所の件も含め、先人から引き継いだ素晴らしい歴史資産が高岡全体にある。これらを住民が学び直し、誇りを持って磨き上げることで、県外へ流出した若い世代が戻ってくるような魅力あるまちにしたい。